

京都市の自然環境の現況

三山に囲まれ、鴨川・桂川が市内を貫流する恵まれた自然環境は、京都市の固有の景観を形成し、安らぎを受けると共に、古都・京都の安全な生活を支える基盤となっている。

また本市の総面積の約74%は、多様な生物相を有する森林に占められており、大都市には珍しくツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル等の大・中型のほ乳類が生息している。また、都市周辺部の農地、水路、ため池等には、本市指定の天然記念物であるミナミシガメをはじめとした多様な動植物が生息・生育している。

生き物の生息環境として保全が必要な地域等



奥山



京北・花背等

中世より御所へ木材を貢納する等古くから木材供給地として栄えてきた。「北山杉」の産地としても有名。希少種等の生息も多く確認されている。

里山



三山エリア

市街地と近接する森林が多い。東山や嵐山等、景勝地として知られる。また借景として利用される等、文化的価値が高い。

農耕地



越畑・大原等

食料・木質資源の供給地。近年の開発等により、生きものの生息場所が減少している。休耕田が増加する等、大きな環境の変化が起きている。

市街地



京都御苑・梅小路公園(いのちの森)・社寺林等

主に、社寺林等に一定の広さの緑地や京都固有の自然環境が残っている。

水域



鴨川・桂川等

里山から都市部まで流れる河川は、生きものが生育(餌場)し移動するために重要。特に湿地(深泥池等)に希少種等の動植物が多い。

京都の自然環境が育んできた恵み



祇園祭の粽(ちまき)



葵祭の二葉葵



五山の送り火の松



苔竹垣松

京都の庭園文化



賀茂ナス



聖護院ダイコン



スゲキ菜

伏見トウガラシ

京野菜